

(仮称) 太田西複合拠点公共施設



太田には、旧来の意味合いでの美しい風景ではない、しかしどこか人を惹きつける魅力、郊外的土木的風景がつくる、ヒューマンスケールを超えた新しい美しさへの萌芽が漂っています。しかし他方で、人々が集まり憩う場所には安らぎや親密さを感じる緑や水などの要素も必要です。同時にこの敷地は、平野の豊かな水系に支えられた新田荘や、古代に遡る歴史を想起させる場所でもあります。

郊外的土木性x緑x歴史。これら排反するかに見える要素が共存した、新しい魅力をつくること。私たちは、半ば空中に持ち上げられた環状の箱の組合せによって、駐車場の最大化、立体的な緑のランドスケープ、城砦を思わせる雁行壁を共存させます。人々が空々しさなしで集い賑わう、この街のリアルを結晶化した、新しい太田の風景を、太田市民とともに作り上げたいと思います。



新田地区大川沿い



金山城からの眺望



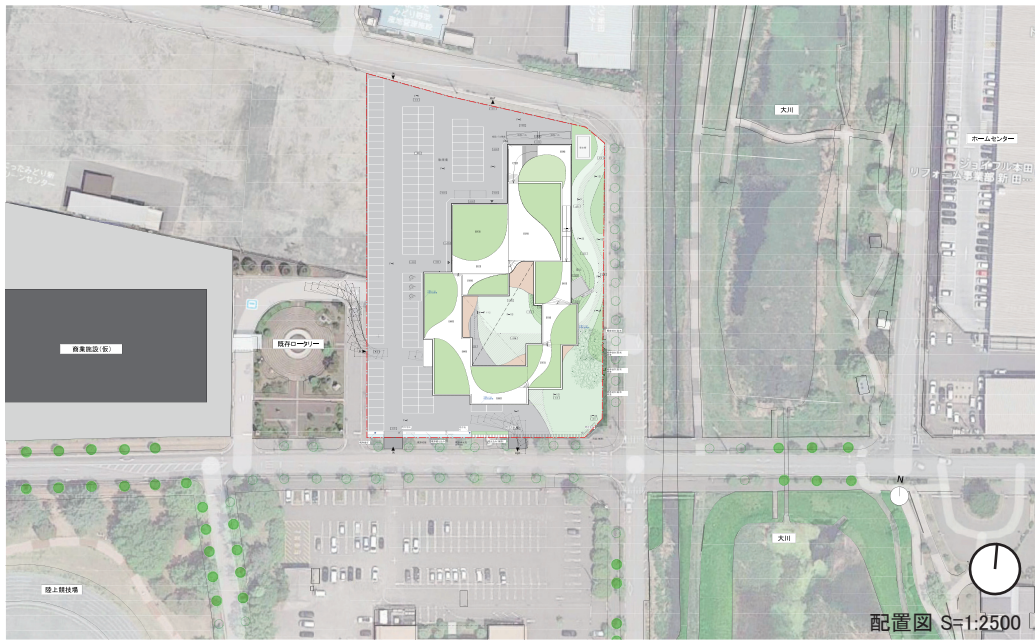
西地区の鉄塔

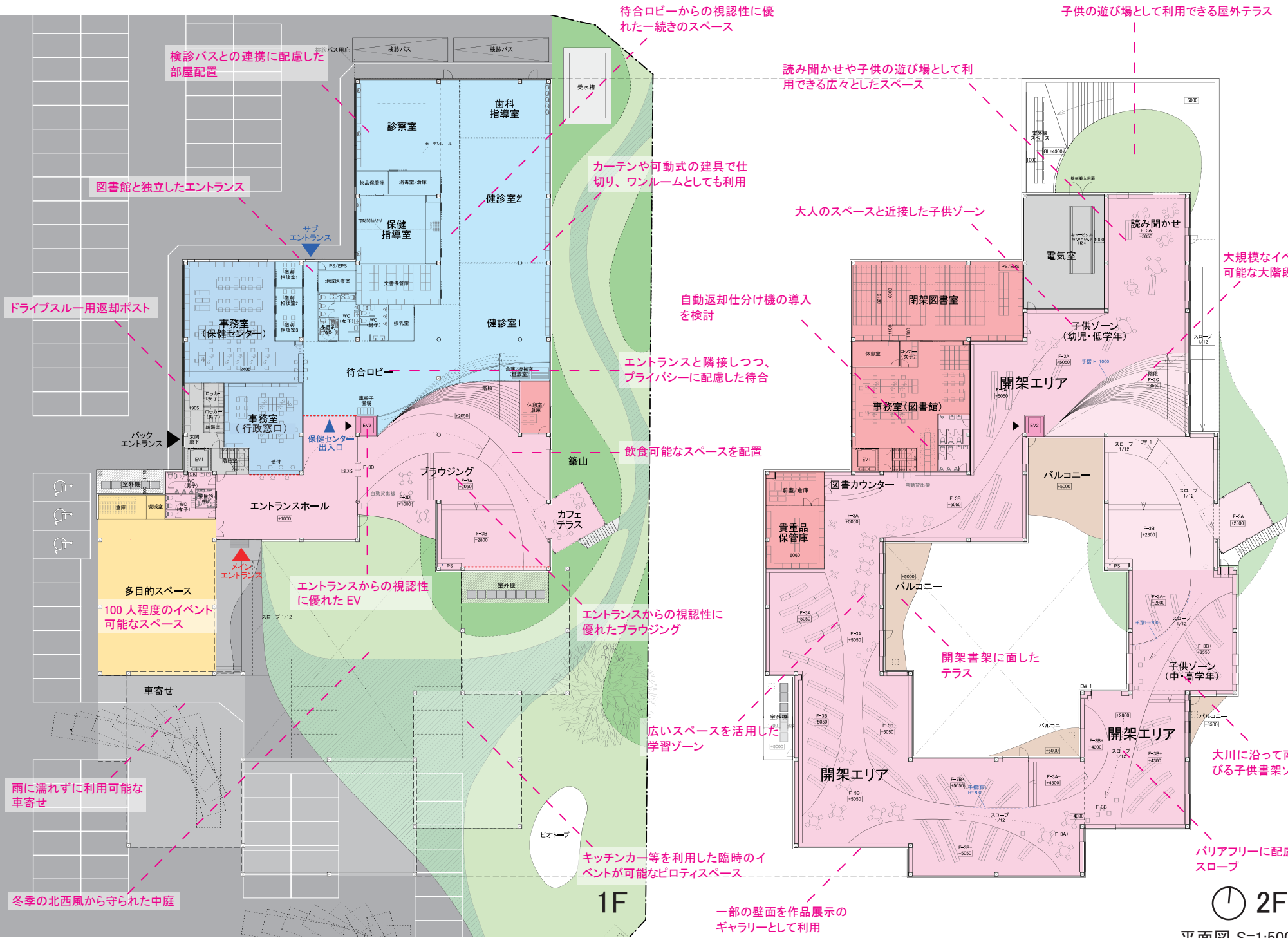
施設概要

計画地：太田市新田金井町 6 番 1 ほか
敷地面積：約 8130m²
建築面積：約 1610m²
延床面積：約 3675m²
構造／階数：鉄骨造／地上 2F
用途：図書館、保健センター、行政窓口

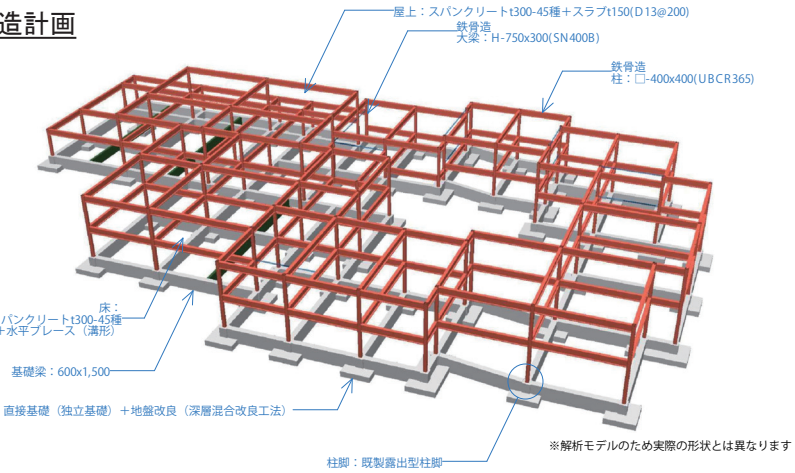
施設面積表

図書館事務スペース／閉架／保管庫 345m ²	
事務室（保健センター／行政窓口）240m ²	
図書館（開架＋エントランスホール）1980m ²	保健センター 790m ²
多目的スペース 220m ²	機械室 100m ²
延床面積：3675m ²	



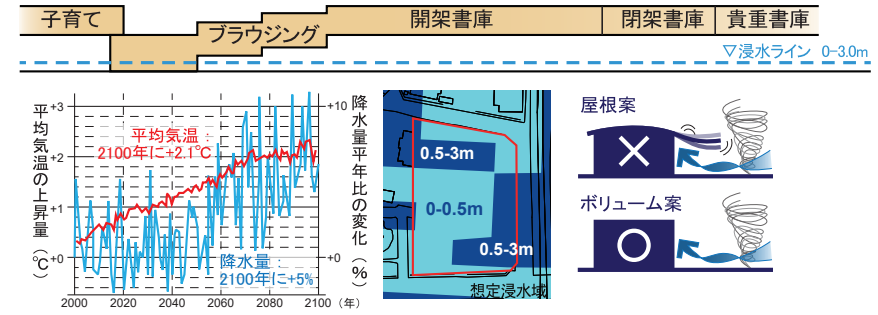
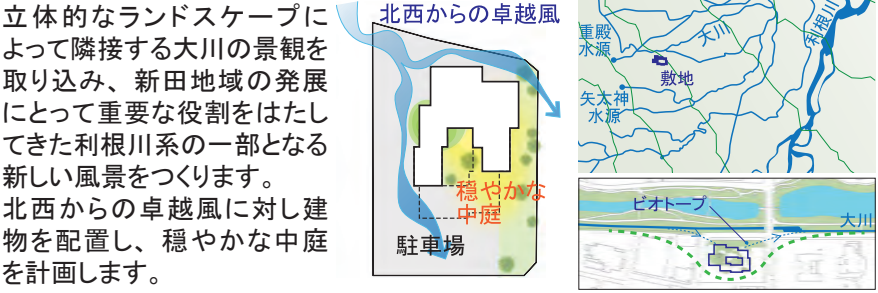


構造計画



箱状の形態を活かし、剛性の高い安定した躯体を平面的に連結した構造で、軽量の鉄骨造とすることで地震力を低減し、経済的な構造としました。床材にはスパンクリートを採用し、大きなスパンを持った大空間を実現しました。水害対策として持ち上げられた部分は、下部に適切なブレース構面を設けることで偏芯を抑え、接地している部分との剛性バランスを確保します。構造上必要な重要度係数 1.25 に対して十分な余裕を持った耐震性能を確保した。

環境への配慮



新田地域は水景に恵まれている一方、水害の歴史もあります。将来推測される甚大な水害の被害から、書架ゾーンや機械設備を持ち上げることで本や貴重資料を守り、災害発生時にも機能維持が可能な拠点施設を目指します。



エンタランスホール / 大階段



開架書架エリア / ブラウジング



開架書架エリア

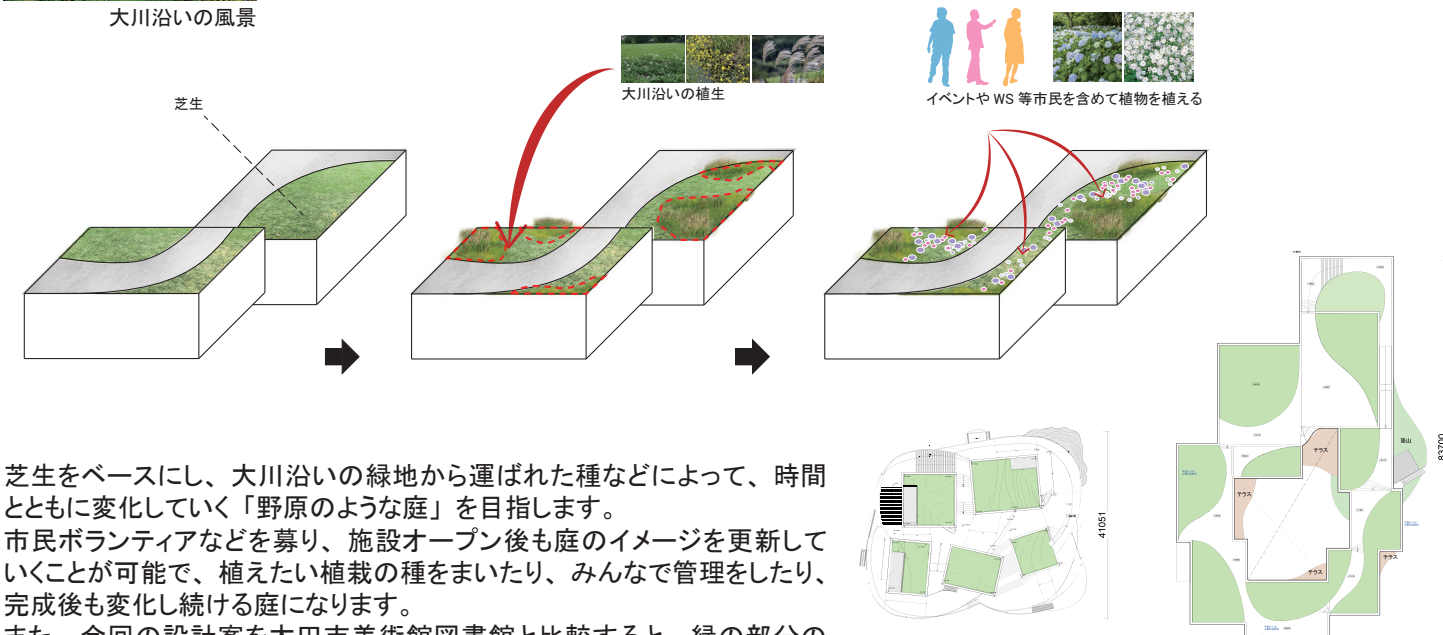


学習スペース / 屋外テラス



大川沿いの風景

太田市美術館図書館の屋上と比較し、対象施設の屋上はより広々とし、新田地区周辺の大川や鉄塔の風景のような野原の延長のような庭がふさわしいのではないかと考えました。



芝生をベースにし、大川沿いの緑地から運ばれた種などによって、時間とともに変化していく「野原のような庭」を目指します。
市民ボランティアなどを募り、施設オープン後も庭のイメージを更新していくことが可能で、植えたい植栽の種をまいたり、みんなで管理をしたり、完成後も変化し続ける庭になります。
また、今回の設計案を太田市美術館図書館と比較すると、緑の部分の面積は約3倍程度の面積があり、全体でも1.4倍程度の大きさがあるため、より広々とした使い方や大きなイベントを行うことが可能となります。

太田市美術館図書館	太田西複合拠点公共施設
屋上・テラス部面積：1580m ²	屋上・テラス部面積：2100m ²
緑地面積：430m ²	緑地面積：1300m ²



屋上から見える赤城山



様々な活動ができる野原のような庭



屋内外の様子が見え、テラスを介して一続きにつながります。

